専大スポーツ
No.343
大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web(http://sensupo.com/) でも大会結果を配信しています

水泳・日本学生選手権競技大会（水球）

チーム力発揮し3位

▶ 攻撃の中心を担った四家主将

9月5日から7日まで、神奈川県さがみはらグリーンプールで日本学生選手権水泳競技大会（水球競技、以下インカレ）が行われた。専大は昨年の7位から大きく順位を上げ、3位に入賞した。

初戦で立命館大に危なげなく勝利すると、2回戦で今季の関東学生リーグ戦では接戦となった中大と対戦。専大が序盤から攻勢に出て前半を8―2で折り返す。最終ピリオドで相手の反撃を食らうも四家敬太（経営3・秀明英光高）主将を中心とした攻撃で終始リードを保ち、15―11でベスト4入りを決めた。

準決勝では早大に敗れたものの、日大との3位決定戦はチーム力を発揮。7人の選手が得点を決めて11―9で競り勝った。四家主将は、「3位決定戦の相手がライバルの日大だったので、絶対に負けたくなかった。目標としていたインカレベスト4を達成できてうれしい」と話した。

（新井健太郎・文2＝写真も）

レスリング・全日本大学グレコローマン選手権

4人が3位

66kg級 魚住　80kg級 武田
85kg級 与那覇　98kg級 雫田

全日本大学グレコローマン選手権が9月25、26日の両日、駒沢体育館で行われた。専大からは7人が出場し、4人が3位となった。

入賞したのは▽66kg級＝魚住彰吾（経済3・育英高）▽80kg級＝武田光司（経営1・埼玉栄高）▽85kg級＝与那覇竜太（経営2・浦添工高）▽98kg級＝雫田真最（文3・小諸高）

久木留毅コーチは「優勝する力がある選手たち。この結果は11月の全日本大学選手権につながるので次に向けてサポートしていく」とコメント。

ケガから復帰後、初の大会となった雫田は「準決勝は普段注意されているところが敗因となった」とローリングの返しの甘さを反省。しかし、3位決定戦では開始53秒でテクニカルフォールを決めた。全日本学生選手権王者の与那覇は「2冠を狙っていたので悔しい」と気持ちを吐露。

武田は3回戦まで勝ち進むも、「自分のレスリングができなかった」と今大会の優勝者・前田祐也（拓大）との試合を振り返った。敗者復活戦では「切り替えたことで結果が出た」と話す通り、攻撃的な試合を展開した。

魚住は「コンディションは悪くないので次の大会に向けて気持ちを上げていきたい」と語った。

また、大学対抗得点の結果は昨年と同じ5位だった。（岡野希春・経済2＝写真も）

◀ 銅メダルを手に笑顔の4人（後列左から魚住、武田、前列左から与那覇、雫田）

▲ 好成績を残した芝野（写真は6月の関東学生選手権）

バドミントン・東日本学生選手権

女子単　芝野が準優勝

東日本学生バドミントン選手権（8月31日～9月5日、札幌市・北海きたえーる）の女子シングルスで芝野真由（商3・金沢向陽高）が準優勝の好成績を残した。

「自分でも驚いている。一つひとつの試合を粘って、自分から攻めていこうと強気で臨んだのがよかった」と喜びを語った。

また、全日本学生選手権（10月24～30日、愛知県一宮市、以下インカレ）に向け、「個人で8位以内に入り、全日本総合選手権（12月1～7日、東京・代々木第2体育館）に出場したい」と目標を語った。

その他の主な成績は次のとおり。

【女子団体】4位【女子シングルス】村山果帆（人間科学4・新潟青陵高）＝ベスト8【女子ダブルス】浦谷夏未主将（商4・尚志高）・篠田未来（文4・富岡高）ペア＝ベスト4

関東大学秋季リーグは3位

関東大学秋季リーグ戦（9月13～21日、日体大健志台キャンパス米本記念体育館）は、筑波大と法大に敗れ、3勝2敗で3位となった。

篠田は「優勝のチャンスはあったが、筑波大に負けたことが大きかった」と振り返った。また、浦谷主将は「3位というのも一つの評価。次のインカレでは団体でベスト4以上、ダブルスでは優勝したい」と話した。

＝◇＝

7月にスペイン・コルドバ市で行われた世界学生選手権で準優勝を果たした浦谷・篠田ペアの報告会が9月22日に生田キャンパスの学長室で行われ、矢野建一学長に成果を報告した。

（中軍友希・経済2＝写真も）

▶ 右から渡辺英次バドミントン部長、篠田、矢野学長、浦谷、松木健一常務理事

ゴルフ・関東大学秋季Aブロック対抗戦

男子3位 女子4位　信夫杯出場権を獲得

関東大学秋季Aブロック対抗戦（9月18、19日、埼玉県・こだまゴルフクラブ）で男子が3位。関東女子大学秋季Aブロック対抗戦（同10、11日、静岡県・富士カントリークラブ）で女子が4位となり、男女ともに信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦の出場権を獲得した。

男子は初日、厳しい戦いを強いられたが、それでも全員が大きく崩れることなく、トータル520で3位タイ。巻き返しを図るチームを牽引したのは久志岡俊海（商4・広島国際学院高）。久志岡が2日目を1アンダーで回り、前日の借りを返す活躍を見せると、山田大晟（商1・横浜旭陵高）も2日間トータルで143と好成績を残した。

女子は2日間とも安定した成績を残した。

初日、高山佳小里（経営3・広島県瀬戸内高）がこの日トップとなる69打で回る活躍を見せ、チームを牽引。2日目は高山と西山美希（経営3・厚木北高）がともに2オーバーの好成績。トータル602で大会を終えた。

（安江祐輔・経済3）

▶ 信夫杯でも活躍が期待される久志岡＝撮影・木村

卓球・秋季関東学生リーグ戦

女子が3位、男子は4位

秋季関東学生卓球リーグ戦（9月3～11日、代々木第二体育館ほか）で、専大は女子が3位、男子が4位となった。

▶ 優秀選手賞に選ばれた庄司

女子は大正大にストレート勝ちし、順調に駒を進める。3戦目の中大には2―3と王手を許したが、6番手の中島三桜（商1・横浜隼人高）が2セット先取されながらも逆転勝ち。この勝利で勢いに乗り、7番手の須藤洸（文2・遊学館高）がフルセットの末、最後の一勝を手にし、この一戦をものにした。6戦目は春季リーグで唯一敗れた淑徳大に4―1で圧勝。しかし早大、東京富士大に敗れ、通算5勝2敗。春季に続く優勝とはならなかった。

瀬下真優主将（人間科学4・明誠高）は、「淑徳大に勝てたのがうれしかった。結果は振るわなかったが全力を出しきれたので満足」と語った。

個人では、女子の優秀選手賞に庄司有貴（文2・青森山田高）が、男子の最優秀ペアー賞に東勇渡（経営1・帝京高）・田添健汰（商1・希望が丘高）組が選ばれた。

（木村健人・商1）